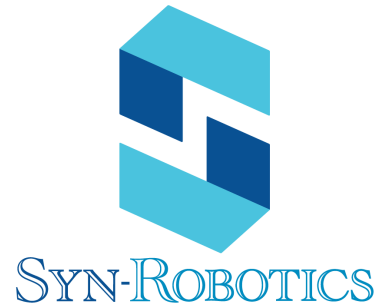


畑常駐型ロボット『シンロボ』、設立に伴う初回資金調達を完了

露地栽培の畑作向け除草と見回りを担う AI 搭載農業ロボットを開発 — 2026 年夏、長野県御代田町で連続稼働実証を開始

株式会社 SYN-ROBOTICS（本社：長野県御代田町、代表取締役 COO：柳本 友幸、以下「シンロボ」）は、露地栽培の畑作向け、畑に常駐する AI 農業ロボットを開発する企業です。当社は 2026 年 4 月 28 日、**会社設立に伴う初回の資金調達を完了**したことを発表します。本ラウンドで調達した資金は次回の資金調達ラウンドに向けた事業開発に使用します。なお、本事業は、サステナジー株式会社における研究開発から継続して連携してきた芝浦工業大学 大谷研究室、株式会社イクシスとの産学連携体制のもと、引き続き共同研究・共同開発を進めてまいります。



■ 投資家コメント

OASIS FUND 代表パートナー 高萩 浩之 氏

家の周りの雑草を抜いていて辛かった。あれを農家さんは何百倍、何千倍の面積でやっている。しかも夏に。猛暑日はこの 100 年で約 3.9 倍に増えていて、もう人間がやれる限界に来ていると思いました。畑に常駐するロボットという発想を聞いて、これしかない。気づいたら一緒にやることになっていました。応援しております！

株式会社シンカホリック 代表取締役 田中 耕比古 氏

シンロボが取り組む AI 農業ロボットの開発は、農業現場の人手不足や作業負荷という課題に、テクノロジーで新しい解決策を実装していく挑戦です。技術力と一次産業の未来を変えていこうとする姿勢に共感し、今回の出資を決定いたしました。株主として、同社の挑戦を支援してまいります。

■ 経営陣コメント

代表取締役 COO 柳本 友幸

OASIS FUND 様、株式会社シンカホリック様より、事業成長に向けたご支援をいただくことができました。資金のみならず多大なるアドバイス・ご紹介もいただいております。大変心強く感じております。いただいたご支援を糧に、技術開発と事業成長を力強く推進してまいります。

取締役 CTO 藤田 雅博

ソニーで AIBO の研究から商品化までを担った経験から、シンロボはオフグリッド環境での完全自律稼働を目指す点で AIBO 経験が直接活きる領域です。屋外環境への対応や農作業固有のマニピュレーションなど新たな技術的挑戦に満ちています。現場の声に寄り添いながら開発と実装を進めてまいります。

取締役会長 CEO 三木 浩

データと技術の活用は、先人たちから受け継がれた知恵、生産者が現場で積み重ねてきた経験や知見を補完する重要な手段だと、サステナジーで 2019 年に開始した研究開発研究開発を通じて確信してきました。引き続き現場の声に耳を傾け、着実に歩みを進めてまいります。

※ 各コメントの全文は PR TIMES 記事をご参照ください。

■ これまでの開発状況

- ・ 2019 年 サステナジー株式会社主導で開発を開始
- ・ 2020 年 宮城県内の太陽光発電所での実験（試作初号機）
- ・ 2025 年 10 月 長野県御代田町のレタス圃場にて公開試験を実施

■ 会社概要

会社名：株式会社 SYN-ROBOTICS
代表者：代表取締役 COO 柳本 友幸
所在地：長野県北佐久郡御代田町大字草越 1207-23
事業内容：畑常駐型 AI 農業ロボットの研究開発・製造・販売
サイト：<https://synrobo.ai>

■ 本件に関するお問い合わせ

広報窓口：広報担当 杉浦 **メール**：pr@synrobo.ai

■ 関連リリース

- ・ **会社設立リリース** (2026/3/17)
prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000179013.html
- ・ **フィジカル AI Thinka 採択** (2026/4/9)
ファーストライト・キャピタル株式会社運営の起業家支援プログラムに採択
prtimes.jp/main/html/rd/p/000000058.000088098.html